

## 2023年度事業計画書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

### 【募金収益の増加】

当事業団の財源は県内の個人や企業、団体、学校等から寄せられる「愛の募金」です。2020年度以降、コロナ禍の影響で受取寄付金は減少していますが、2023年度の目標は前年度比500万円増の1800万円としました。増額の主な理由は、コロナ禍以降中断していた障害者の国内旅行「希望号」を再開させるための予算措置です。新聞紙面やウェブサイトで募金への協力を呼び掛けるなどして、目標額を達成してまいります。

### 【公1事業】(障害者、交通遺児等に対する健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための支援事業＝予算合計500万円)

#### (1) 第19回希望号(国内／11月)

「希望号」は、障害のある人たちに国内旅行を楽しんでもらおうと、1984年にスタートした当事業団の中核事業です。県民の善意に支えられ、2019年には総勢約100人が伊勢神宮を中心に三重、静岡、愛知3県の名所を巡りました。その後コロナ感染が拡大し、参加者の安全確保を第一に考え、20年度希望の翼、21年度希望号、22年度希望の翼と3年連続で中止としていました。今般、感染症法上の位置付けでコロナを「5類」に移行させる政府方針が決定したことなどから、23年度については事業を再開できると判断いたしました。

#### (2) わたしもアントラーズ応援団(鹿嶋市／8月)

県内の交通遺児とその家族、児童養護施設の子どもたちを励まそうと、サッカーJ1鹿島アントラーズのホームゲームに招待し、健全な育成を支援する目的で実施します。2019年度に実施したのを最後に、コロナ禍により中断されていましたが、23年度は再開できるとみております。

#### (3) ホーリーの元気サポーター(水戸市／10月)

サッカーJ2水戸ホーリーホックと協力し、ホームタウンの児童養護施設などの子どもたちをホームゲームに招待する事業。20、21年度とコロナ禍で中止していましたが、22年度は最終戦を迎えたケーズデンキスタジアムで3年ぶりに実施し、水戸・県北地域から4施設から引率者を含め22人が参加しました。23年度も引き続き実施し、事前の周知に注力し、より多くの子どもたちに楽しんでもらう考えです。

#### (4) 予備費

【公2事業】(茨城県内の社会福祉、学術、文化、芸術などの各種団体の活動支援のための助成事業および災害被災者への支援を目的とする助成事業)

**《文化事業助成》＝予算合計 387 万円**

- (1) 竜ヶ崎子どもミュージカル公演への助成
- (2) 交流事業「天心サミット i n 五浦」への助成
- (3) 「狂言鑑賞会」への助成
- (4) 「全国こども陶芸展 i n かさま」への助成
- (5) 「日本の書展茨城展」への助成
- (6) 「水戸市芸術祭」への助成
- (7) 「茨城県芸術祭」への助成
- (8) 「全国選抜高校剣道大会」への助成
- (9) 「茨城県民駅伝競走大会」への助成
- (10) 「外国人による日本語スピーチコンテスト」への助成
- (11) 「現代茨城作家美術展」への助成
- (12) いばらき文化振興財団の体験型童話劇事業への助成
- (13) 茨城県民オペラ協会のコンサート事業等への助成
- (14) 茨城県 イタリア エミリア・ロマーニャ州友好交流協会の歌唱・講演事業への助成
- (15) 予備費

**《福祉事業助成》＝予算合計 506 万円**

- (1) 23 年度「歳末助け合い募金」を県内の福祉団体・施設へ贈呈
- (2) 茨城いのちの電話の相談事業への助成
- (3) いばらき被害者支援センターの広報ツール作成事業への助成
- (4) 日本オストミー協会茨城県支部の講習会・講演会事業等への助成
- (5) 心身障害児者療育会きつつき会の研修資機材購入事業への助成
- (6) ハンセン病療養所への茨城新聞送付
- (7) 予備費

以上

## 資金調達および設備投資の見込みを記載した書類

2023年4月1日から2024年3月31日まで

### （１）資金調達の見込みについて

当期中に借入れによる資金調達の予定はありません。

### （２）設備投資の見込みについて

当期中に重要な設備投資（除却または売却を含む）の予定はありません。